

大会宣言

今世界は環境、経済において未曾有の危機を迎えている。人権を尊重しない経済原理が拍車をかけている。そして、政治、経済、文化などにおいて多様性が要求されている今、21世紀社会を展望するために、多くの研究者がその能力を存分に発揮する必要がある。7月の洞爺湖サミットは、人類の危機である地球温暖化回避のために、政治家・経済人のみならず、科学者が何を果たしうるのかも注目されている。

日本科学者会議は現状を把握、分析し、提言とその実現の運動を展開してきた。第39回定期大会はその成果を確認し、以下のように社会へ種々の提言と要求実現の運動をよびかけることを確認した。その基礎として組織を拡大し、運動を改善することを誓った。日本科学者会議は、自らを世界的にも貴重な平和主義、人権主義を謳う憲法をもつ国の、世界にもまれな科学NGOとして自覚し、ここに、科学者の社会的責任を果たす活動を展開することを宣言する。

1. 人類の生存と平和的繁栄のために研究を行い社会へ働きかける

- 1) 研究活動の成果を第17回総合学術研究集会(11月22~24日、名古屋)で発表する。
- 2) 支部の研究活動の定着をはかり、13研究委員会の活動を促進し、連携を深める。
- 3) 憲法の理論的深化の取り組みと旧教育基本法をいかした運動を行う。「九条の会」アピール賛同科学者1万名をめざす。
- 4) 研究活動の成果を集約し21世紀憲法論、21世紀学術体制論、21世紀社会論の系統的な議論を進める。
- 5) 諸団体との共同によって原水爆禁止世界大会・科学者集会(8月1日、つくば市)を成功させる。
- 6) 研究成果を国際シンポなどで発表し、国際的運動をINES(地球的责任のための技術者・科学者の国際ネットワーク)など海外の科学NGOと連携して行う。

2. 高等教育と科学・技術の真の発展のために発言し行動する

- 1) 高等教育と科学・技術に関する政策提言を友誼団体と共同作成し、要求運動を展開する。
- 2) 「研究者の権利・地位および倫理」を実践しつつ深め、幅広い合意形成を促進する。
- 3) 国公立大学、高専および国公立研究機関における研究体制や環境の悪化の実態把握に努め、その改善のために積極的な提言を行う。
- 4) 若手研究者の実態を把握し、ポスドク問題や高学費問題などについて政策提言を行う。
- 5) 民間企業における技術者・研究者の実態を把握し、権利保障や地位向上をもとめる活動を他と連帯して行う。
- 6) 女性研究者・技術者の権利・地位向上に努め、要求実現を重視して取り組む。

3. 組織を強化・活性化し、科学者運動を発展させる

- 1) 常任幹事会は支部・地区への組織指導・援助を行う。支部は創意工夫をもって現状の組織を一步改善する。
- 2) 若手会員を拡大し、研究・組織活動を通じて将来の担い手として成長を促す。大支部では院生会員比率を10%以上とする。全国は若手向け企画の実施、連絡交流の基盤をつくる。
- 3) 女性会員を拡大し、本会における女性会員・役員の比率向上に努める。
- 4) Webサイトを一層充実し、会員交流、利便性の向上を図る。
- 5) 全国は、重要な活動には積極的な援助を行い、地区と協力して、困難支部への対策を進める。

4. 『日本の科学者』を充実・普及する

- 1) 編集体制の一層の改善を図り、安定的な定期発行を維持する。
- 2) 誌面の充実・改善に努め、依頼・投稿原稿の一層の増加を図る。
- 3) 国立情報学研究所のNII論文情報ナビゲータに『日本の科学者』を登録する準備を進める。